

作成対象サンプル

- ・仕様書別紙③項番 1 ～ 5 のサンプルを掲載します。
- ・こちらは、あくまでサンプルであり、改めて契約後に校正作業等を依頼することになりますので、御承知おきください。

1. お知らせ

ヒトパピローマウイルス感染症（HPV）ワクチン接種について（お知らせ）

川崎市では、ヒトパピローマウイルス感染症（HPV）ワクチン接種について、キャッチアップ接種として、対象年齢を過ぎた方であっても、平成9（1997）年4月2日以降に生まれた女性は、令和7（2025）年3月31日まで、公費（無料）の対象としております。

また、令和5（2023）年4月1日から、9価のHPVワクチン（シルガード）も公費（無料）で接種できるようになりました。

同封の厚生労働省作成リーフレットをお読みにになり、ワクチンの有効性とリスクを十分に御理解の上、接種について御判断いただきますようお願いいたします。

<注意 確認をお願いします>

- ・本通知は、本市が持つ平成27年4月1日以降の接種履歴情報にて、HPVの接種履歴が確認できない全ての人に送付しております。既に接種がお済みの方におかれましては、接種は不要ですので、本通知を破棄していただくようお願いいたします（4回目以降の接種はできません）。
- ・特に、転入されてきた方について、本市は転入前の接種履歴情報を持っておりません。
接種を希望される場合は、お手元の母子健康手帳等にて接種履歴を確認し、接種が必要かどうかを必ず事前に確認してください。

○対象者

以下のいずれにもあてはまる方

- ・接種日時時点で川崎市に住民登録がある方
- ・平成9（1997）年4月2日から平成19（2007）年4月1日に生まれた女性
- ・過去にHPVワクチンを受けていない方（接種済の方に対する償還払いは裏面を参照してください）

1回目又は2回目の接種で中断してしまった方は、初回からやり直すことなく残りの回数を接種（2・3回目又は3回目）してください。

○実施期間 令和4年4月1日～令和7年3月31日まで

○使用ワクチン シルガード（9価）、サーバリックス（2価）、ガーダシル（4価）

※過去の接種記録が分かるよう、できるだけ母子健康手帳もお持ちください。

接種間隔等の詳細については、ホームページを参照してください。



市ホームページ
HPVについて

○接種場所 川崎市予防接種個別協力医療機関

医療機関に接種の事前予約をお願いします。

予診票は接種を受ける医療機関に備え付けの予診票をご活用
ください。



R5 協力医療機関

※市外で予防接種を受ける場合は、事前に手続きが必要となります。

健康被害が発生した場合の救済措置制度および接種費用の払戻しを受ける
ためには、必ず事前に予防接種依頼書の申請が必要です。

「オンライン手続かわさき (e-KAWASAKI)」を利用し、予防接種依頼書の申請を
オンラインで行うことができます。



e-KAWASAKI

○償還払い

川崎市では、キャッチアップ接種の対象者（積極的勧奨の差控えにより、HPV ワクチンの定期接種の機会を逃した方）で、定期接種の対象年齢（高校1年生相当）を過ぎて、令和4年3月31日までの間に、定期接種で不足した回数のHPV ワクチン（※）を日本国内の医療機関において、自費で受けた方に、令和7（2025）年3月31日まで、接種にかかった費用の償還払い（助成）を行います。詳細については、市ホームページを参照してください。

※令和4（2022）年4月1日時点において定期接種化されていなかったシルガード（9
価）は償還払いの対象外です。サーバリックス（2価）・ガーダシル（4価）のみ対象
となります。



HPV 償還払い

ヒトパピローマウイルス感染症（HPV）ワクチンの接種については、同封の厚生労働省作成リーフレットをお読みにになり、ワクチンの有効性とリスクを十分に御理解の上、接種について御判断いただきますようお願いいたします。

厚生労働省のホームページにも
HPV ワクチンに関する情報が
載っています。



厚労省HP

<お問い合わせ先> 川崎市予防接種コールセンター 月～金(平日)8:30～17:15

電話 044-200-0142 FAX 044-200-3928

※FAX の回答は日数を頂きます。

【平成9年度生まれ～平成18年度生まれ】までの女性へ

大切なお知らせ

HPVワクチンの接種を逃した方に 接種の機会をご提供します



- 平成9年度生まれ～平成18年度生まれ(誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日)までの女性の中に、小学校6年から高校1年の頃に、HPVワクチンの接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。
- まだ接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供します。

このご案内は、既に接種を受けた方にも届くことがあります。
接種を受けたかどうかは、母子健康手帳などでご確認ください。



ひと、暮らし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

対象となる方々について

・次の2つを満たす方が、あらためて接種の機会をご提供する対象となります。

- 平成9年度生まれ～平成18年度生まれ(誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日)の女性
- 過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない

※ このほか、平成19年度生まれの方は、通常の接種対象(小学校6年から高校1年相当)の年齢を超えても、令和7(2025)年3月末まで接種できます。

・過去に接種したワクチンの情報(ワクチンの種類や接種時期)については、母子健康手帳や予防接種済証等でご確認ください。

■ なぜ、あらためて、接種の機会が設けられるのですか？

- ・ HPVワクチンの接種を個別にお勧めする取組が差し控えられていた間(※)に、定期接種の対象であった方々の中には、ワクチン接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。
- ・ こうした方に、公平な接種機会を確保する観点から、あらためて接種の機会をご提供しています。

※ 接種後に報告された多様な症状等について十分に情報提供できない状況にあったことから、平成25年から令和3年まで、個別に接種をお勧めする取組を一時的に差し控えていました。

令和3(2021)年11月の専門家の会議で、安全性について特段の懸念が認められないことがあらためて確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたことから、個別に接種をお勧めする取組を再開することになりました。

■ 過去に、1回のみ接種した場合や、2回のみ接種した場合にも対象となりますか？

- ・ HPVワクチンは合計3回接種します。1回接種したことがある方は残り2回、2回接種したことがある方は残り1回、公費で接種を受けることができます。

接種可能な時期について

上記の対象者は、**令和4(2022)年4月～令和7(2025)年3月の3年間**、公費で接種できます。

3回の接種を完了するまでに十分な期間が設けられていますが、希望される方は、なるべく早く接種しましょう。

接種するワクチンの種類とスケジュール

公費で接種できるHPVワクチンは、3種類(2価ワクチン(サーバリックス®)、4価ワクチン(ガーダシル®)、9価ワクチン(シルガード®9(※1))あります。決められた間隔をあけて、同じワクチンを合計3回接種します(※2)。

※1 2023年4月から、シルガード®9も公費で受けられるようになりました。

※2 1回目、2回目に気になる症状が現れた場合は、2回目以降の接種をやめることができます。



一般的な接種スケジュール



※ いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましい。

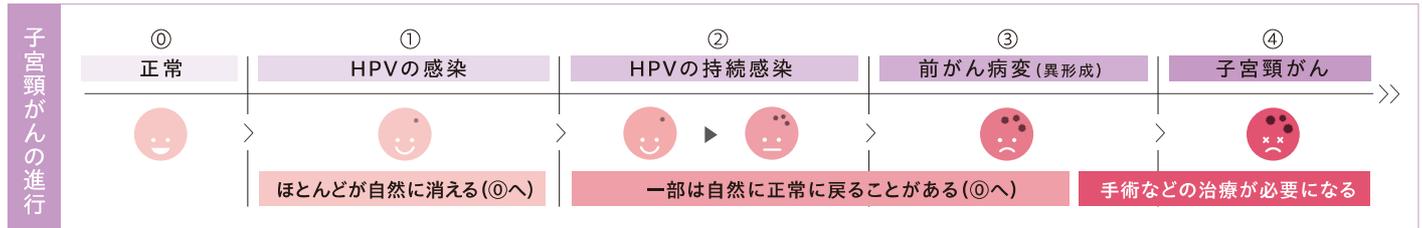
※ シルガード®9は、15歳未満はスケジュールが異なります。

子宮頸がんとは？

- 日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。

▶ 子宮頸がんにかかるのはなぜ？

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。
- HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。
- 感染は、主に性的接触によって起こり、女性の多くが一生に一度は感染するといわれています。



子宮頸がんで苦しまないために できることが2つあります。HPVワクチンを受けた方も、検診をお忘れなく！

1 HPVワクチン

▶ HPVの感染を予防します

• ワクチンで防げないHPV感染もあるため、子宮頸がん検診を定期的を受診することが大切です。

2 子宮頸がん検診

▶ がんを早期発見し治療します
▶ 20歳以上の方は、2年に1回

• HPV感染は主に性的接触により起こります。パートナーと共に性感染症の予防も忘れずに。

HPVワクチンの効果とリスク

- サーバリックス®およびガーダシル®は、子宮頸がんをおこしやすい種類(型)であるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50~70%を防ぎます(※1)。シルガード®9は、HPV16型と18型に加え、ほかの5種類(※2)のHPVの感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80~90%を防ぎます(※3)。

※1・3 HPV16型と18型が子宮頸がんの原因の50~70%を占め、HPV31型、33型、45型、52型、58型まで含めると、子宮頸がんの原因の80~90%を占めます。また、子宮頸がんそのものの予防については引き続き評価が行われている状況ですが、これまでのサーバリックス®およびガーダシル®での知見を踏まえると、子宮頸がんに対する発症予防効果が期待できます。

※2 HPV31型、33型、45型、52型、58型

- HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれに、重いアレルギー症状や神経系の症状が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動(動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまう)といった多様な症状が報告されています。

※ 接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種を受けた医療機関などの医師にご相談ください。HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関をお住まいの都道府県ごとに設置しています。協力医療機関の受診については、接種を受けた医師またはかかりつけの医師にご相談ください。

■ 定期接種の対象年齢(高校1年相当まで)を過ぎても、接種の効果はありますか？

- 16歳頃までに接種するのが最も効果が高いですが、それ以上の年齢で接種しても、ある程度の有効性があることが、国内外の研究で示されています(※)。
- なお、定期接種の対象年齢を過ぎてからの接種について、明らかな安全性の懸念は示されていません。

※ ワクチンが子宮病変を予防する有効性は概ね16歳以下の接種で最も高いものの、20歳頃の初回接種まではある程度有効性が保たれることや、性交経験がない場合はそれ以上の年齢についても一定程度の有効性があることが示されています。性交経験によるHPV感染によって、ワクチンの予防効果が減少することが示されていますが、性交経験がある場合でも、ワクチンの予防効果がなくなってしまうわけではありません。

▶ ワクチンの安全性の確認について

接種が原因と証明されていなくても、接種後に起こった健康状態の異常について報告された場合は、審議会(ワクチンに関する専門家の会議)において一定期間ごとに、報告された症状をもとに、ワクチンの安全性を継続して確認しています。

接種方法について

- ・住民票のある市町村からのお知らせをご覧ください。
- ・過去に受けた接種回数や時期により、接種方法が異なる場合があります。できるだけ母子健康手帳を確認・持参して、市町村や医療機関に相談してください。

予防接種健康被害救済制度について

極めてまれですが、予防接種を受けた方に重い健康被害を生じる場合があります。HPVワクチンに限らず、日本で承認されているすべてのワクチンについて、ワクチン接種によって、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、申請し認定されると、法律に基づく救済(医療費・障害年金等の給付)が受けられます。

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき	→ 接種を受けた医師・かかりつけ医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関 <small>※ 協力医療機関の受診については、接種を受けた医師またはかかりつけの医師にご相談ください。</small>
不安や疑問があるとき、困ったことがあるとき	→ お住まいの都道府県に設置された相談窓口
HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他の感染症全般についての相談	→ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口
予防接種による健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき	→ お住まいの市町村の予防接種担当部門

厚生労働省のホームページでは、HPVワクチンに関する情報をご案内しています。

厚労省 HPV

Q 検索



HPVワクチンに関するよくあるQ&Aはこちら→



○接種場所

川崎市予防接種個別協力医療機関

<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000017647.html>

※市外で予防接種を受ける場合は、事前に手続きが必要となりますので、川崎市予防接種コールセンター【044-200-0142】に御連絡ください。



川崎市予防接種
個別協力医療機関

○接種に必要なもの

①身分証明書(マイナンバーカード、健康保険証など)

②予診票(協力医療機関に備え付けております。事前にお確かめください。)

※過去の接種記録が分かるよう、できるだけ母子健康手帳もお持ちください。

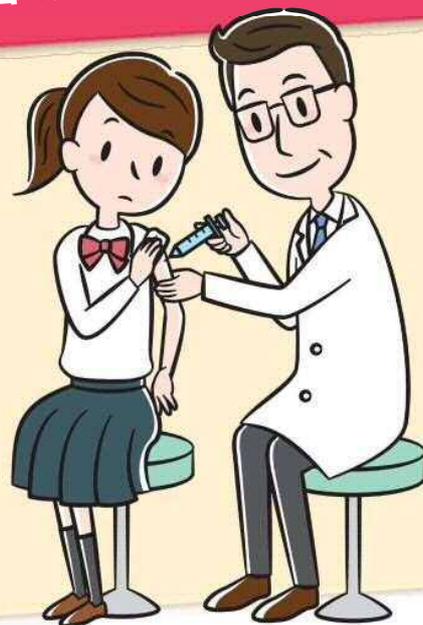
お問い合わせ先 川崎市予防接種コールセンター 電話：044-200-0142

3. HPVリーフレット（お子様と保護者の方へ）

HPVワクチンを受けた お子様と保護者の方へ

ワクチンを受けた後は、
体調に変化がないか
十分に注意してください。

もしも、気になる体調変化があった場合は、
このリーフレットを参考に、医師に相談してください。



当日

ワクチンを受けた後30分ほどは
座って様子を見てください。*

※ワクチンを受けることに対する緊張や、強い痛みをきっかけに、
立ちくらみがしたり、血の気が引いて、時に気を失うことがあります。
血管迷走神経反射という誰にでも起こる可能性がある反応で、
通常、横になって休めば自然に回復します。
倒れてケガをしないように
背もたれのあるイスに座って休みましょう。



ワクチンを受けた日は
はげしい運動はやめてください。



数日後
から
数週間後

気になる症状が出たときは
すぐにお医者さんや周りの大人に相談してください。

具体的な症状を裏面に掲載していますので、参考にしてください。

ワクチンを受けても、子宮けいがん検診は必要です

ワクチンを受けた人も、20歳をすぎたら2年に1回、必ず検診を受けてください。
ワクチンで防げないタイプのHPV（ヒトパピローマウイルス）もあります。

以下のような症状しょうじょうが出たら、お医者さんや周りの大人にワクチンを受けたことを伝えて、相談してください。

- 注射の針はりを刺したときに強い痛みやしびれを感じた
- ワクチンを受けた後に、注射した部分以外のところで痛みや手足のしびれ・ふるえなど気になる症状や体の変化がある



起こるかもしれない体の変化

多くの人に起こる症状*	<ul style="list-style-type: none"> ● 注射した部分の痛み、腫れ、赤み ● 疲れた感じ、頭痛、腹痛、筋肉や関節の痛み
その他の症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 注射した部分のかゆみ、出血、不快感 ● 発熱、めまい ● 発しん、じんましん ● 緊張<small>きんちやう</small>や不安、痛みなどをきっかけに気を失う

※接種を受けた人の10%以上に起こった症状



まれですが、起こるかもしれない重い症状

- 呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー（アナフィラキシー）
- 手足の力が入りにくいなどの症状（ギラン・バレー症候群しやうこうぐん）
- 頭痛、嘔吐、意識の低下などの症状（急性散在性脳脊髄炎せきせいせんざいせいのうせきずいえん（ADEM））

<痛みやしびれ、動かしにくさ、不随意運動ふずいいうんどうについて>

- ワクチンを受けた方に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと）などを中心とする多様な症状が起きたことが報告されています。
- ワクチンを受けていなくても、こうした症状のある方もいることが分かっています。

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき

- ➡ 接種を行った医師・かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関
※協力医療機関の受診については、接種を行った医師又はかかりつけの医師にご相談ください

不安や疑問があるとき、困ったことがあるとき

- ➡ お住まいの都道府県に設置された相談窓口

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談

- ➡ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口

予防接種による健康被害救済に関する相談

- ➡ お住まいの市町村の予防接種担当部門

厚生労働省のホームページでは、HPVワクチンに関する情報をご案内しています。

厚生省 HPV



平成9年度生まれ～平成18年度生まれの女性へ

令和5(2023)年4月より

「HPVワクチン」 の接種の機会を逃した方も 9価のワクチンを公費で 接種できるようになりました

※公費で接種できるのは令和7(2025)年3月末までです。希望される方は、お早めに3回の接種を完了してください。



Q 「HPVワクチン」とはなんですか？

A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9価のワクチンのほかに、2種類のワクチン(2価のワクチン、4価のワクチン)があります。どのワクチンを接種するかは、医師にご相談ください。

Q 9価のHPVワクチン(9価ワクチン)とは、どのようなワクチンですか？

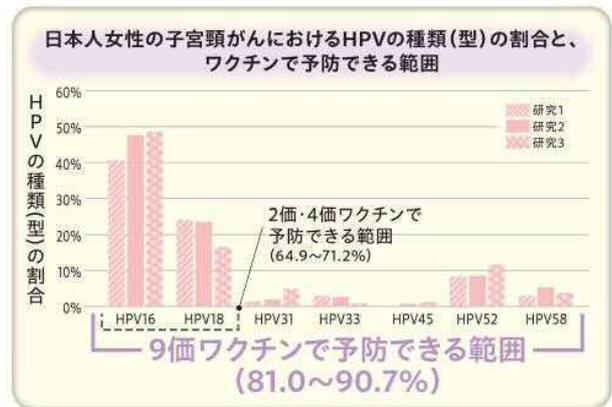
A HPVにはいくつかの種類(型)があり、9価ワクチンは、このうち9種類のHPVの感染を防ぐワクチンです。中でも、子宮頸がんの原因の80～90%を占める、7種類のHPV※の感染を予防することができます。

※16型、18型、31型、33型、45型、52型、58型

Q 9価ワクチンの接種後に副反応はありますか？

A 9価ワクチンの接種後には、右表の副反応が起こることがあります。

接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。



9価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンファクトシート(国立感染症研究所)をもとに作成
研究1: Onuki, M., et al. (2009). Cancer Sci 100(7): 1312-1316. 研究2: Azuma, Y., et al. (2014). Jpn J Clin Oncol 44(10): 910-917. 研究3: Sakamoto, J., et al. (2018). Papillomavirus Res 6: 46-51.

接種後に現れる可能性のある症状

発生頻度	報告されている症状
50%以上	疼痛(痛み)*
10～50%未満	腫脹(腫れ)*、紅斑(赤み)*、頭痛
1～10%未満	浮動性めまい(頭がぼーっとしてふらつく感覚)、悪心、下痢、そう痒感(かゆみ)*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感(だるさ)、硬結*など
頻度不明	感覚鈍麻(刺激に対して感覚が鈍い状態)、失神、四肢痛など

シルガード®9 添付文書(第1版)より改編

*ワクチンを接種した部位の症状

あなたと関係のある“がん”があります

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳代から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡の第2位は、子宮頸がんによるものです。
- HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されていますが、ワクチンで防げないHPV感染もあります。子宮頸がんを早期に発見し治療するため、20歳以上の方は、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

平成9年度生まれ～平成18年度生まれ(誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日)の女性の中に、小学校6年から高校1年の頃に、接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。まだ接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供しています。

詳しい情報は、こちらをご確認ください。

9価ワクチンについてのより詳しい情報は、こちらをご確認ください。



一般的な接種スケジュール

9価ワクチン(シルガード®9)で接種を開始する方は、決められた間隔をあけて、合計3回接種します※1。1回目または2回目に気になる症状が現れた場合は、2回目以降の接種をやめることができます。

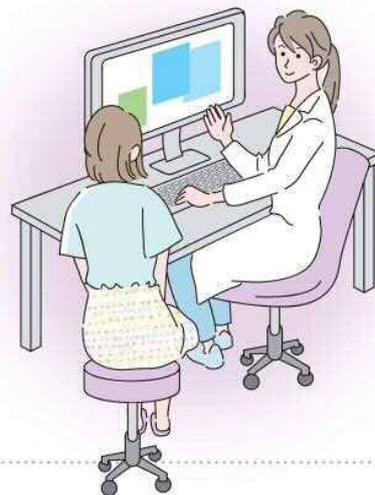
※1 シルガード®9は、15歳未満はスケジュールが異なります。



これまでに、2価 または 4価のHPVワクチン(サーバリックス®またはガーダシル®)を1回または2回接種した方へ

原則として同じ種類のワクチンを接種することをお勧めしますが、医師と相談のうえ、途中から9価ワクチンに変更し、残りの接種を完了することも可能です※。この場合にも公費で接種することができます。

※2価または4価のHPVワクチン(サーバリックス®またはガーダシル®)を接種した後に9価ワクチン(シルガード®9)を接種することに対する効果やリスクについての科学的知見は限定されています。



予防接種健康被害救済制度について

極めてまれですが、予防接種を受けた方に重い健康被害が生じる場合があります。

HPVワクチンに限らず、日本で承認されているすべてのワクチンについて、ワクチン接種によって、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、申請し認定されると、法律に基づく救済(医療費・障害年金等)の給付が受けられます。

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき

- ▶ 接種を行った医師・かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関
※協力医療機関の受診については、接種を行った医師またはかかりつけの医師にご相談ください

不安や疑問があるとき、困ったことがあるとき

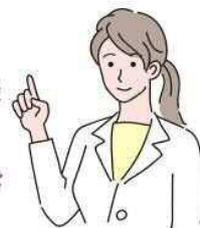
- ▶ お住まいの都道府県に設置された相談窓口

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談

- ▶ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口

予防接種による健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき

- ▶ お住まいの市町村の予防接種担当部門



HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。



厚労省 HPV



HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q&A)については、こちらをご確認ください。



5. 長3封筒

Y24.KD.25.2022.0530 川崎市様 予防接種のお知らせ 窓付き長3封筒

F303

料金後納
郵便

よぼうせつしゅ おしらせ
予防接種のお知らせ

Vaccination Notice
／予防接種的通知／예방접종 안내

◎お問合せ先については裏面をご覧ください。

HPV キャッチアップ接種
(必ず開封してご確認ください)

〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
川崎市健康福祉局保健医療政策部
予防接種担当

F04-2204



川崎市 予防接種 検索 「川崎市 予防接種」で検索

川崎市ホームページ <https://www.city.kawasaki.jp/>

受付時間／月～金曜日 8:30～17:15
(休日・年末年始は除く)

TEL 044-200-0142
FAX 044-200-3928

川崎市予防接種コールセンター

かわさきしよほうせつしゅおしらせセンター
予防接種に関する問合せ先

川崎市健康福祉局保健医療政策部 予防接種担当
川崎市川崎区宮本町1番地

